

With コロナ時代を地産地消で乗り越える  
伊東の農業を知る、そして楽しむための農業委員会だより

# 落花生に 針路を取れ

伊東市の農業は岐路を迎えているといっても過言ではありません。農林水産省によると、基本的農業従事者（個人経営体）の令和3年度の平均年齢は67.9才で、伊東市はこれよりさらに農家の高齢化が進んでいます。農業を辞めてしまう方もこれから増えるでしょう。一度荒れた畑を元に戻すのは大変です。そこで今ある畑を上手に使う方法としての、市内農家の取り組みを紹介します。

今の伊東に

# 必要な農業



**伊** 東市では、風に強く傾斜の多い土地でも栽培が可能で、少ない力で引き抜けて、高齢の農家でも扱いやすい大粒落花生の「おおまさり」の栽培を勧める「落花生プロジェクト」を推進しています。

その生産農家である増井勲さんの畑を訪れて話を聞いてみました。

畑は傾斜地で、120平方メートルほどの広さ、ここでおおよそ150キログラムの「おおまさり」を栽培しているそうです。



初めて知ったのですが、落花生は読んで文字の通り、花が咲き、その花が落ちた後、茎が伸び地面にささり実になつてい

くらしいです。ちょうど収穫の時期でしたので、二引き抜かせてもらいました。

確かに抜きやすい。70過ぎた方が大根を抜いているのを見かけますが、これなら80才越えても扱えるかなと思いました。

落花生は一般的には乾燥した状態で食べることが多いと思いますが、「おおまさり」は生の状態から茹でて食べる



未成熟果（茹でる前）

とのこと。そこでさつそく塩茹でしたものを食べさせて貰いました。

これがすごいおいしいー！  
あのお菓子に入っているピーナッツとは別もの、風味が違う。ほくほくとしたゆで栗のような食感ー！

さらに模様がしっかりとでない未成熟果も食べてみると勧められて食べてみたらこれもまたメチャクチャ美味い。ぶちゅつとした感覚。周りの白いところも甘いー！これは絶対市場にでないので、農家しか食べられないとのこと。増井さんによると、1坪の庭程度の広さでも栽培できるとのことです。

この未成熟果を食べる為にぜひ、チャレンジしてみたいかがでしょうか？

最後に増井さんからの忠告で、

「買ってきたらその日のうちに茹でる」「茹でたらすぐ食べる。」

「残った物はすぐ冷凍。」  
というのを教えてもらいました。

とにかく旬が大切。地元を楽しむ貴重な品です。

# 伊

東市の農業が力を入れ始めた大粒落花生「おおまさり」

作ったとしても消費できなければ意味がない。

そこで楽しい消費の方法を話し合っていたけれど、甘辛く煮て煮豆にするとか、塩ゆでが一般的であるというところで話が止まってひろがつていかない。

塩ゆでも確かに美味しい食べ方だけれども、この農業委員会だよりは観光と農業を結びつけるというのをテーマにしている、観光に携わる人たちが参考にしたいと思うようなメニューを心がけているので、いささか華やかさにかける。そこでそれ以外の食べ方はないかなと、やりとりを続けていると、農家の方に落花生ご飯はどうかという意見をいただいた。ほんのりピンク色に見えて綺麗だという。なるほど、それならば観光のお客様も喜んでくれそうだといいことで作ってみた。

豆ご飯の落花生版。味付けは塩だけ。ピンクに見えるかというところ微妙なところかもしれないけれど、色合いは綺麗。一口食べてみる。あつ、これご飯がとまらなくなるやつだ。

一般的なグリーンピースを使った豆ご飯よりは、「おおまさり」の味が



## 伊東産 “おおまさり” はここで買う!



How to get local peanuts.

※「おおまさり」の出荷は9月頃から始まっています。自然相手なので常にあるものではありません。



地元生産者直売の野菜や果物、お弁当やパンなども販売

### いっで湯っこ市場

〒414-0045 静岡県伊東市玖須美元和田715-26

TEL 0557-44-5050

営業時間 9:00 ~ 16:00

定休日：毎月第3火曜日 ※臨時休業することがあります

駐車場収容台数 72台

濃いのでおいしく、味付けがシンプルだけに米の甘さと、落花生の風味と食感が引き立つ。米が美味い！豆が美味い！あつと言う間に平らげてしまっておかわりへ。これはみんなにぜひ試して貰いたい。



あなたの家が建っているその土地は

# 地目が農地

のままになっていませんか？

農地のまま

過去に農地転用の許可を受け、家を建築した後に、登記地目の変更手続きをしていない場合は、地目が農地のままになっている可能性があります。

事業完了後は農業委員会に工事完了報告書を提出し、法務局にて地目変更登記の手続きをする必要があります。

家(宅地)を相続したけれど、  
登記地目が畑(農地)になっていた!  
建て替えや売買をしようと考えているのに困ったなあ...



山林だと思っていた土地の地目が実は畑(農地)だった!  
子どもたちに残す前に何とかしなきゃなあ...



農地についての手続きやご質問は、お気軽に農業委員会事務局までご連絡ください。

TEL: 0557-32-1735



表紙の写真

## 三枝飾工房 『アンジンの豆船』

伊東市出身のアーティスト三枝文字子氏が手がける三枝飾工房の作品。徳川家康の命により日本で初めて洋式帆船が伊東市でつくられたことにちなんで、また、伊豆の「豆」の字をかけて落花生で作られました。

三枝飾工房は伊豆半島はもとより、六本木ヒルズをはじめ、全国各地にてワークショップの開催や作品を展示しています。

『アンジンの豆船』だけでなく、伊東の風景を切り取った切り絵、またそれらを使ったランタンなど、どの作品も全国各地で好評を博しています。

<http://heartisland3.com>

※見学、ワークショップのお申し込みは予約制です。

※『アンジンの豆船』は伊東市の『ふるさと納税』の返礼品になっています。

